

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 3 日現在

機関番号：13901

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2015

課題番号：15K12160

研究課題名(和文)「昭和天皇実録」からの人脈抽出による20世紀の日本寡頭政の政治経済史研究

研究課題名(英文) Political and economic research regarding oligarchy in Japan in the 20th century: a survey from the biography of former Emperor Hirohito

研究代表者

増田 知子 (Masuda, Tomoko)

名古屋大学・法学(政治学)研究科(研究院)・教授

研究者番号：10183104

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は「昭和天皇実録」を用い、情報の抽出・加工を行うことで、天皇を頂点とする権威的秩序と明治期から戦後まで続いた寡頭政の変遷を分析することを目的とする。

(a)宮内庁から入手したデータからテキストデータを作成し、拝謁者等の氏名・肩書の抽出を行った。結果、44322種類の肩書と人名のセットを抽出できた。出現回数の多い肩書を見ると、親王、内大臣、宮内大臣が上位に来ることがわかった。また、1941-44年について、人物ごとに月ごとの拝謁回数をグラフ化したところ、歴史的イベントとの相関関係が見いだせる可能性が高いとわかった。(b) (a)に関連し、『法律新聞』のデータ整備を行い検索データベースを完成させた。

研究成果の概要(英文)：This research project, based on the information extracted from the biography of former Emperor Hirohito (Showa-Tennou-Jitsuroku), analyzes the authoritarian regime centered around the former emperor and its transformation from the Meiji to the postwar period.

(a) This research formulated text data from the Emperor's biography and extracted the name and title of the individuals who were presented at Court. As a result, we could extract the names and titles of 44,322 presentees. A look at the list reveals that Imperial Princes, Lord Keepers of the Privy Seal, and Ministers of the Imperial Household were frequently granted an audience to the former emperor. Also, we tabulated monthly data showing the number of meetings with the the former emperor by each person from 1941 to 1944 and found that this data may reveal an aspect of some historical events during the period. (b) Associated with the project (a), we built a retrieval database of the legal news (Houritsu-Shinbun).

研究分野：日本政治史

キーワード：寡頭政 昭和天皇実録 天皇制 社会ネットワーク

1. 研究開始当初の背景

代表者は、これまで戦前の立憲君主制から全体主義への転換を研究し、近年は占領改革における「天皇再利用」政策の検討を行ってきた。体制転換の説明については、少数の指導者(寡頭指導者)を中心に形成される政官財軍ネットワーク間の競争・協調関係に注目すべきと考えている。寡頭政とは民主政でも独裁政でもない少数者の支配を指す。 閣と呼称される集団による競争的支配がそれに該当するが、日本の政治学ではほとんど注目されてこなかった。そこで、戦前戦後を通じた政官財軍ネットワークの変遷について、天皇の意思決定に参画した人物とその関連情報を集積した情報基盤を作成することにより、政治階級を可視化した上で、社会ネットワーク分析を行いたいと考えた。

2. 研究の目的

本研究は、情報科学、法情報学と政治史との共同作業により、歴史情報基盤を構築し、それに基づく政治階級の可視化と社会ネットワーク分析を行うことを目的としている。研究対象は、天皇を頂点とする権威的秩序の下で明治期から戦後まで続いた寡頭政の変遷である。20世紀という長期のタイムスパンで日本の権威主義的寡頭政と政治法律経済等の関係を可視化するため、データの抽出・加工は、主に「昭和天皇実録」(1901~1989年)を対象に行い、また法律・叙任情報等が掲載されている『法律新聞』のデータベースの作成を目指した。

3. 研究の方法

本研究は、次の4段階の手順で進める。  
 (1) 「昭和天皇実録」から、拝謁者の人名とその拝謁日等の必要な情報を抽出する。  
 (2) 既に重要であることが認められている人物ネットワークが可視化できることを、手作業で確認する。この段階では、『人事興信録』や『法律新聞』等を用いて、関係情報・属性情報を手作業で加える。  
 (3) この手作業による可視化を再現できるように、システムの構築をおこなう。  
 (4) 整備したシステムを使って、89年間にわたる長期のタイムスパンで、天皇の意思決定に関与した政官財軍ネットワークとその変遷について、政治経済史と社会ネットワーク分析を組み合わせて検証する。

4. 研究成果

(1) 宮内庁から入手した「昭和天皇実録」からテキストデータを作成した。このデータに対して、最初に、日付などの形式的に判断できる基本構造についてのマークアップをおこなった。

次に、拝謁者等の人名・肩書をセットで抽出する作業をおこなった。人名・肩書は不定のパターンで出現するため、マークアップについては、人手での作業が必要不可欠である。しかし、「昭和天皇実録」のテキスト量は約860万文字あり、ここからすべて手作業でマークアップすることは困難であるし、見落としや主観が入る余地が大きい。

そこで、統計的手法を用いて予め機械にマークアップさせた上で、それを人がチェックするという方法をとった。具体的には、機械学習ツールである++を用いて自動抽出をおこない、その結果を人手で修正することにより、人名・肩書を抽出した。また、人手の修正コストを最小限に抑えるため、人手で修正したデータを CRF++の学習データに適宜加えることを繰り返し、CRF++による抽出性能を徐々に改善するというスパイラルな手法をとった。このマーキング結果の一部を図1に示す。

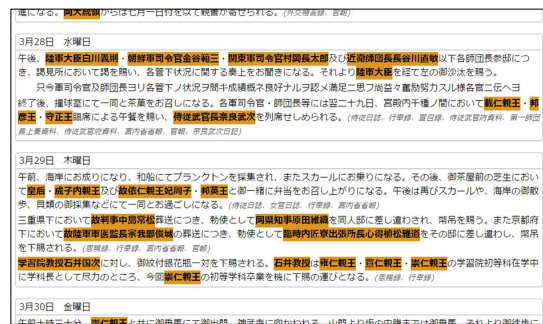


図1 マーキングの結果

その結果、44,322種類の肩書と人名のセットを抽出することができた。この中では、同一人物であっても、肩書が異なる場合には別々に扱っているため、これをどのように処理するかが今後の課題である。

マーキング作業の次のプロセスとして、人名と肩書の分割をおこなった。この作業も、予め機械に処理をさせた上で、その結果を人手で修正するという方法をとった。ここでの機械処理の方法は、ルールベースによる方法を用いた。分割するルールが比較的明確であったためである。分割ルールの一部を図2に示す。図3は、分割を適用させた結果である。

カテゴリ	具体例		
王族関連	国王	王妃	皇帝
	皇后	皇太子	
王室役職関連	御用掛	参謀長	出仕
	主事	奉仕者	侍従長
政治家関連	官房長	首相	大臣
	議員	議長	
	郡長	知事	市長
学校関連	教授	校長	博士
	教諭	教官	

図2 肩書の分割ルールの一部

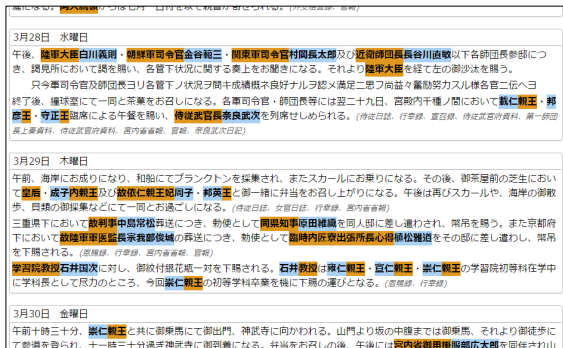


図3 人名と肩書を分割したマーキング

「昭和天皇実録」では、直前に同じ肩書が記述されている場合、肩書が「同」として省略される場合がある。このように省略されている場合には、人物の肩書が単独ではわからないため、肩書の補完を行う必要がある。この補完をおこなうためのルールベースの処理の設計を終えた。しかし、このルールから外れる例外も少なくないため、やはり最終的には、人手によるチェック作業が必要となるが、この点については、研究期間内に作業を終えることができなかった。

(2) 関連データの整備として、本課題では主に『法律新聞』のデータベースの構築をおこなった。『法律新聞』のテキストデータを入手できたため、この整備に集中することにした。入手したデータは、『法律新聞』の1~92号の部分であり、文字数では約430万字に及ぶ。この部分は、「昭和天皇実録」の時期と一致しないが、『法律新聞』中の法律記事や叙任情報(辞令)を網羅的に扱うための予備調査として整備した。

入手した法律新聞のテキストデータは、10年以上前に作成されたものであったため、文字コードがUTFではなくシフトJISであるなど、技術的に古い仕様であった。また、作成された当時の利用目的と、本研究課題における利用目的が異なる点でも、入手したデータをそのままの形で利用することは困難であった。

そこで、入手したデータに対して様々な処理を加える必要があった。データベース作成にあたって最も重要だった処理は、記事の種類別の分別であった。法律新聞には、多種多様な記事が登場し、表記ゆれ(例えば、「寄贈新刊書目」と「新刊寄贈書目」)を整理しても、49種類の記事が登場する。この中には、「判決例」のようにほぼ毎号掲載されるものから、「法海遺味」のように一度しか登場しなかったものまである。法律新聞が付している記事種類は非常に雑多であったため、この49種類を、論文・判例・法令・法律記事・外国記事・その他の記事・辞令・お知らせ、という8項目に分類した。この分類により、利用者は、単純なキーワードだけに頼るのではなく、そのキーワードが出現する記事の大まかな分類も考慮して、検索結果を見ることが

できる(図4)。

作成した検索データベースでは、これらの項目を使ってあらかじめ絞り込んで検索をすることができるようになっている。また、記事種類が判例と法令に分類されているものについては、事件名や法令名、判決番号や法律番号といった特定の項目を使って検索ができるようになっている。このデータベースは2016年度中に一般公開することを予定している。

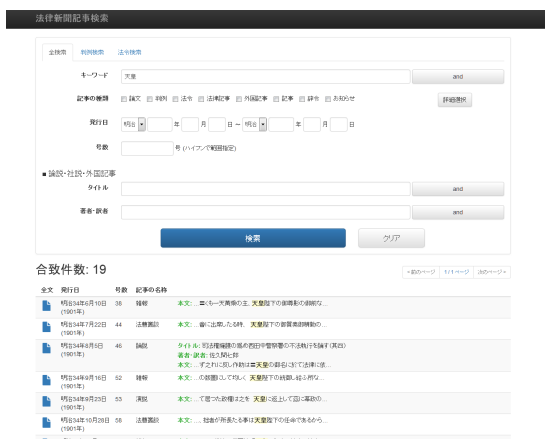


図4 法律新聞データベース

(3) 拝読回数の変遷を可視化した。出現回数が多い肩書を見ると、親王、内大臣、宮内大臣が上位に来ることがわかった。また1941~1944年の期間について、人物ごとに月ごとの拝読回数をグラフ化したところ、歴史的事件との相関関係が見いだせる可能性が高いことがわかった。詳細な検討は、今後の課題とする。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

増田知子、「第2次大戦期の日本における反共保守主義による戦時体制批判 < 共産主義の日本主義化 > 言説を通じて」、名古屋大学法政論集、巻号未定(掲載確定)、査読無

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

増田知子 (MASUDA, Tomoko)  
名古屋大学・大学院法学研究科・教授  
研究者番号: 10183104

### (2) 連携研究者

角田篤泰 (KAKUTA, Tokuyasu)  
名古屋大学・大学院法学研究科・特任教授  
研究者番号: 80292001

中村 誠 (NAKAMURA, Makoto)

名古屋大学・大学院法学研究科・特任助教  
研究者番号：50377438

佐野智也 (SANO, Tomoya)  
名古屋大学・大学院法学研究科・特任助教  
研究者番号：30419428

(3)研究協力者

小川泰弘 (OGAWA, Yasuhiro)  
名古屋大学・情報基盤センター・准教授  
研究者番号：70332707